



# 輸送経路

物流事業者が商品や物資を輸送するとき、出発地と目的地の位置、到着時間、運賃、荷姿、貨物車のサイズ、道路の整備状況や渋滞状況などを考慮して輸送ルートを決めている。

大都市では高速道路が港や空港に直結していないため、市街地の渋滞に巻き込まれる場合や、大型トラックが走行できない路線や交差点のため、このような物流から見た問題は、道路整備計画は「分ける」「減らす」



安達弘展（あだちひろのぶ） 昭和55年生まれ。都立大院修士。技術士。建設技術研究所 中部支社道路・交通部

## 第7回 道路整備計画と物流事業者

と、交通状況は著しく変わる。結果、目的地までの輸送距離や時間が大幅に短縮される可能性がある。物流事業者は、道路整備効果をいち早く取り込むことが必要だ。

交差点の解消、重さや高さ指定道路の不連続区間の解消がある。

経路変更で輸送時間減

新しく道路が整備され

図1 圏央道開通による輸送時間削減のイメージ



図2 新東名開通による圏域拡大イメージ



東京八王子市から横浜への輸送を例にとる。従来は国道一六号を利用することが多かったが渋滞多発区間のため、輸送時間は約二時間だった。だが、圏央道海老名ジャンクション（JCT）が新設されたことにより、東名高速道路利用料は新たに掛かるが、圏央道の利用で、輸送時間に余裕が生まれ、労務コスト削減や交通事故減少、さらに新たに生まれた時間を新規業務に使うなどのメリットが実現する。

新規取引開拓

配送圏拡大

配送圏拡大で新規取引開拓

高速道路利用料は新たに掛かるが、圏央道の利用で、輸送時間に余裕が生まれ、労務コスト削減や交通事故減少、さらに新たに生まれた時間を新規業務に使うなどのメリットが実現する。

メリットでまず考えられるのは「ルート変更で輸送時間削減」。道路の整備効果として、その整備効果を実現する。

配送圏拡大

配送圏拡大で新規取引開拓

高速道路利用料は新たに掛かるが、圏央道の利用で、輸送時間に余裕が生まれ、労務コスト削減や交通事故減少、さらに新たに生まれた時間を新規業務に使うなどのメリットが実現する。

また、渋滞状況の予測もなく開通する新東名高速道路・浜松いなさJCT～豊田東JCTの間に、道路整備の効果が事前に把握すれば、輸送ルートの見直しや営業先の拡大として、道路整備の効果を新設開通に有利に進めることができる。